

②

追想、先考性嗜書畫、嘗得沈南蘋畫一幅、甚愛焉、畫則一鹿立苔磯、桃枝斜出其上、而蝙蝠飛其中間之圖也、其筐面題曰「福祿壽圖」、時兒年在十歲左右、視而怪之、無知其所謂也、而終不能忘乎懷、近來偶解其意、曰、福音與蝠通、鹿與祿通、樹與壽通、以故託焉而爲圖也、嗚呼兒得此說、而先考捐背已十餘年、其畫亦值家貧而鬻矣、不知當時在何人處、

読み

追想、先考の性は書畫を嗜む。嘗つて沈南蘋の畫一幅を得て、甚だ愛でる。畫は則ち一鹿が苔磯に立てり。桃枝斜めに其の上に出、而して蝙蝠其の中間を飛ぶの圖なり。其の筐面に題して福祿壽の圖という。時に兒の年十歳左右にあり、視てこれを怪しむ、その謂ふ所を知る無しなり。而して終に懷かしく忘れ能はざるなり。近來偶その意を解するに、曰く、福の音は蝠と通じ、鹿は祿と通じ、樹は壽と通ず。故をもつて託す圖なり、嗚呼兒は此說を得る。先考捐背して已に十餘年。其の畫も亦家貧に値ひて、鬻ぐなり。知らず、當時 何人の處に在るか。

訳

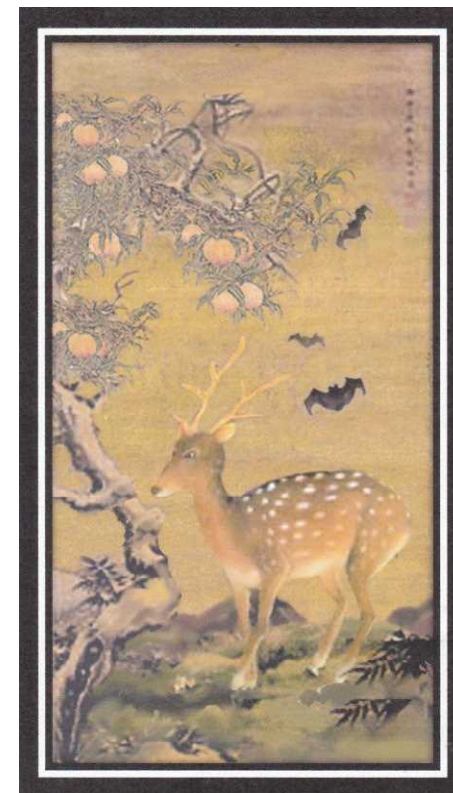
想い出。亡き父の趣味は、書画を楽しむことであつた。いつか沈南蘋の絵を一幅得て、とてもそれを大事に愛でていた。絵は、苔むした川辺に一匹の鹿が立つており、その上に桃の木の枝が斜めに出ていて、その中を蝙蝠が飛んでいる図であつた。その箱には題があり、「福祿寿の図」とあつた。その時、私は十歳ばかりで、見て不思議だつた。その表すところのことを知らなかつた。しかし、それは懷かしく忘れ難いものだつた。近ごろとうとう私は、その絵の意味するところが分かつた。つまり、福の音は蝠と通じ、鹿は祿と通じ、樹は壽と通ずる。だから、こと寄せている図なのだ。とうとう私はこの説を得た。父が亡くなつてすでに十余年経つた。その絵も、家が貧しくなり売られた。私は知らない、(その絵が)その時どんな人のところにいったのか。

言葉・註

沈南蘋 〓 シンナンピン。清シン代の画家。浙江セッコウ省呉興県の人。花鳥を描くのが巧みであつた。長崎に来航、滞在し、日本の花鳥画に大きな影響を与えた。

兒 〓 ジ 子、子が親に対して自分のことをいうときのことば

託 || タクス かこつける ことよせる
 値 || チ アタイ アウ 当面する
 鬻 || シュク ヒサグ カユ かゆ 売る ひさぐ



沈南蘋の他の絵から合成したイメージ図（宮崎和夫作）